

初めての参与観察

—— 2017年度「社会人類学演習Ⅱ」の学生レポート集 ——

深山 直子

I はじめに

「社会人類学演習Ⅱ」(田沼幸子・深山直子担当)は、社会人類学分野の学部3年生を主たる対象とした通年科目である。フィールドワークを実践し、それを民族誌として表現するために必要な基本的知識・技法を学ぶことを目的としている。この科目の最初の課題として、学生が完成させた参与観察のレポート12本を、かれらの許可を得たうえで、できるだけ教員が手を加えることなくここに資料として掲載する。

学生は第2回目の授業において、まず『山谷ブルース』の一部を読んできたうえで、フィールドワークという調査方法の意味や困難について話し合った[ファウラー 2002]。続けて、講義を通じてフィールドワーク及び参与観察の概要について学んだ。第3回目の授業では、フィールドワークの技法を記した文献から、参与観察に関する部分を読んできたうえで、そのポイントを確認した[谷・芦田 2009、佐藤 2002]。そして、各学生が参与観察の具体的な計画を披露し、現実可能性やリスクについて検討した。学生はその後の2週間の間に、参与観察の実施とレポートの作成という課題をこなし、第4回目の授業では、各学生がレポートを基にその成果を口頭で発表した。教員は課題を提示する際に、参与観察に関して、①ひとつの空間において30分以上実施する、②メモ帳と筆記用具、あるいはスマートフォンのメモ用アプリケーションのみを用いて現場でのメモをとる(写真・動画・音声の撮影はしない)、ということを条件とした。さらにメモと記憶に基づいてレポートを作成する際には、以下を注意点として挙げた。

- ・ 正確な日時・場所情報を含むこと
- ・ 時間と空間、双方に関する情報を含むこと
- ・ 客観的情報と主観的情報を書き分けること
- ・ 主観的情報には、その根拠となる情報を記すこと
- ・ 俯瞰的・大局的情報と、より焦点を絞った情報を含むこと
- ・ 文字と図表の双方を用いること

本課題の主たる意図は、フィールドワークの第一歩として、過度な知識や先入観を持たないまま、参与観察とその文字化・図表化に挑戦し、その難しさや奥深さ、おもしろさを体感してもらうことにあった。特にレポートについては、注意点を守り、か

つ他人が理解できるようなものであれば、その他の点に関しては自由で構わないことを強調した。なお、かれらが描いた図のうち、画質が掲載にそぐわないものは、やむを得ず省略している。掲載の順番は、名前の五十音順としており、山岸のみ大学院前期課程の1年生、他11名は学部3年生である。

Ⅱ 学生レポート集

1 駅のホームを観る

観察者：岩島由季レポート

場所：埼玉県さいたま市J R大宮駅 埼京線 20番線ホーム 4号車付近（地下にホームがあり、薄暗く、照明は白色灯。涼しめ）

状況 その1：17：27発各駅停車新宿行き（停車駅は埼玉北部の各駅と赤羽、十条、板橋、新宿）の発着前後。新宿まで行くのに快速より10分ほど長くなるので、埼玉県内の駅に用がある利用者が多い（戸田、北戸田、武蔵浦和などでよく降りる）。

人物を中心とする観察結果 その1：

①女性、身長170センチくらい、細身、こげ茶色の髪をポニーテール、茶色のガウン（生地は薄目）、紺色のデニムパンツ、黒のスニーカー、黒の布製リュックを足の間に置く。17：20に並ぶ。電車を待つ間は片手でスマホを持ちうつむきぎみでほとんど動かない。「まもなく列車が参ります」のアナウンスが入るとガウンの裾を払う仕草がみられた。電車が目の前に現れても反応なし。完全に停車してからリュックを持つ。スタイリッシュな社会人もしくは学生という印象を受けた。マイペースな人物か？

②女性、身長160センチくらい、中肉中背、黒髪で方あたりまでのストレート、細めの楕円形のメガネ、化粧は薄目（もしくはしていない？）、灰色チェックの襟付き半袖ブラウス、薄い水色のデニムパンツ（膝から少し下までの丈）、わら編みの夏物のサンダル（ヒールは5センチくらい）、黒い角ばったリュック（亀の甲羅みたいな形）に大きなミニちゃんのストラップ（ぬいぐるみくらいの大きさ）。左手に濃い目の灰色パーカーを持つ、右手には何も待っていなかった。待っている間は向かい側にあるホームを見ていた。アナウンスが鳴ると片足を少し曲げ、首を左右に振る仕草がみられた。電車が来るとそちらを少し見て、まっすぐに立ち、パーカーを持ち直した。

③男性、170センチ後半、細身というか細マッチョ、黒髪短髪（刈り上げ）、黒いつば付きのキャップをつばが後ろになるようにかぶる、肌はこげ茶色に日焼け、白い半そでTシャツと黒のハーフパンツ、くるぶしソックスとナイキの靴裏が枝豆色のスニーカー。黒く四角いリュックを腰当たりの位置まで下げて背負っていた。右手に「爽健美茶」、左手にスマホ、イヤホンをしていた。待っている間はあたりを見回す。スマホを見ながら体重をかける足を交互にかえ、足を組んだりしていた。また列の線か

らはみ出すくらいに大股に足を開いたりしていた。イヤホンをしているためかアナウンスが鳴っても特に反応を示さなかった。電車が来てもスマホの画面を見ており、ドアが開き、①の女性が進み始めたところで顔を上げ電車内に入ってしまった。焼けた肌からスポーツをやっている健康的、待つ間の動きの多さからすこし落ち着きがない学生、という印象を受けた。

④女性、身長160センチ前後、中肉中背、からし色のフレア袖のシャツ、水色のワイドデニムパンツ、腰には濃い茶色で革製のサッシュベルト、靴は黒のパンプス（ヒールはあまり高くない、1、2センチくらい）。髪色は黒でポニーテールの結び目に金属製の髪留めがつけられていた。イヤホンをしていた。持ち物は膝より上くらいの高さのキャリーケース（ハート柄？）、そのうえに下がオレンジ色の皮で上はクリーム色の布製のハンドバッグ（A4はぎりぎり入らないくらい大きさ）。濃い茶色の革製のリュックを背負っていた。17:26ごろ（列車到着の直前）に並んだ。位置は③の男性の足を避けてか線から全く外れたところで、②の女性からも少し離れていた。並ぶ直前に列をのぞき込むような仕草がみられた。並んだ直後に後ろを振り返り、リュックを一度方から外し自分の前にずらした。そのあとリュックを背負い直した（何か、リュックの口が開いていないかを確認したように見えた）。それをしたあとは手元のスマホに目を向けた。電車が現れるとあたり（後ろまでは見ていない）を見回し、さらに列の線から離れるように右にずれた。GWに旅行にいった帰りの学生という印象を受けた。

状況 その2：17:33発快速新宿行きの発着前後。17:28ごろ①②③が共に並ぶ。①は列の線を踏むくらいに左に寄っていた。電車が到着し始めると、①②③はともに斜め右を向いた。①②③は夫婦とその子供であり、GWに外出した帰り、もしくは行きという印象を受けた。なお、33分以降は回送電車でありホームで待つ人がいなかった。

人物を中心とする観察結果 その2：

①女性、150センチ後半、少々小太り、黒髪、前髪をもとめてポニーテールにまとめていた、化粧はうすめ、黒の半袖Tシャツ、黒っぽいひざ丈のスカート。赤いチェックのシャツを腰に巻いていた。少し色あせた灰色のニューバランスのスニーカーを着用、ロゴ付きの黒いトートバックを右肩に下げていた。列に並ぶと、②の男性と話しながらスマホを操作し始める。

②男性、170センチくらい、中肉中背、黒髪の短髪、前髪からてっぺんまでの髪が上を向いている（はねている？）、ちょび髭、背中に白で鳳凰？のイラストが描かれた黒の布製長袖ジャケット（冬用ほどに厚くはない）、紺色のデニムパンツ（ゆるめ）、黒いショルダーバッグを左肩から腰あたりまで下けている、黒いスニーカーを着用。①の女性がスマホを操作し始めると画面を凝視した。

③女性、130センチくらい、細身、小学校中学年くらい、肌は白くはない、黒髪でポニーテール、ピンクのリボンの髪飾り、黄緑の柄とピンクのふちのサングラスを着

用、白地に黒のボーダーの半袖シャツ、ウエストに黒いリボンがついたフリルのミニスカートを着用、薄ピンクのスニーカー。17:30ごろ①②から少し離れ、5メートルくらいの範囲を歩き回る。③が離れても①②は話し続ける。17:31ごろ③は①の前にでて、②が①と話しながら左手を肩から腹部までの範囲で3.4回ふる。17:33ごろアナウンスが鳴っても特に動作は変わらなかった。

まとめ:

観察していた列だけでなく全体の列を通してスーツ姿の人はほとんど見られなかった。休日を利用して外出する人が多いのかもしれない。

反省点として、観察していることを気づかれなくするために対象から一定の距離を保っていたが、対象が動きまわると目そしてメモが追いつかなかったことが挙げられる。また後ろから観察していたため表情が見えづらく会話も聞き取りづかった。一人の行動に注目すると、ほかの対象者の動きを見落としやすい。

その反面、離れた場所で観察していたので、全体的、同時的なうごきを客観的に観察できたと思う。また観察していることに気づかれにくかった。

2 喫茶店を観る

観察者: 王蓉果

日時: 2016年5月7日(土) 17:30～18:30

場所: 町田の喫茶店S

時系列な流れ:

私の行動	時間	観察対象
入店&注文	17:30	(1) 男性店員A、女性店員A
着席	17:40	(1) 隣の席に座る男女 (2) 男子学生A・B・C (3) カウンターに座る女性A (4) 男性店員A、女性店員A・B、ベッパパー君
退席	18:30	(1) 女性店員A、女性店員B

【入店&注文】の観察結果:

私が入店する。男性店員Aは10代後半、黒髪の短髪、黒の制服、170cm程度の背丈、「研修中」の札を胸につけている。女性店員Aは20代前半、暗めの茶髪に低めのポニーテール、薄茶の制服、「後根」というネームプレートが胸につけている。

店内で高校生や大学生が勉強をしている光景が見える。ケーキを食べようとウィンドウケースを眺める。現金が財布にいくら入っているか見る。現金を持ち合わせていなかったなのでクレジットカードが使えるか確認するためにレジを覗くが、クレジットカード

対応の機会が見当たらなかった為、諦める。あんこギッフェリが220円というのが目につき、それに決める。カウンターには男性店員Aと女性店員Aの2人。男性店員A「いらっしゃいませ」私「あんこギッフェリとアイスコーヒーSサイズで。」そう言う男性店員A「あんこギッフェリとアイスコーヒーSサイズはいります」と抑揚のある話し方がとあるテーマパークのスタッフのような口調でカウンターにいる女性店員Aに指示をする。男性店員Aは研修中の札を付けていた。女性店員Aは私が中学の頃何度もシングルス試合をした相手だった気がする。そう思っているうちに、男性店員A「ポイントカードはお持ちですか？」私「無くしてしまいましたのでください。」ポイントカードを受け取り、女性店員Aがコーヒーとあんこギッフェリをお盆に乗せて「ごゆっくりどうぞ」とカウンター越しに差し出す。私は勇気がなくまた彼女に話しかけられずに奥のソファ席に向かう。しかし、テーブルカウンターの人たちを観察するために席を移動し、コーヒーを飲みながら観察を始める。

【着席】の観察結果

①1組目の客の際

隣の席に座る男性は30代前半、黒髪の短髪、スラックスの裾が擦れてはつれており、ハイカットの革靴。前の席に座る女性は20代後半、黒髪ストレートでミディアムロングヘア、水色のカーディガンに花柄の紺色のスカート。

女性が「その靴おしゃれですね」と、男性のハイカットの革靴を褒める。「お似合いです」、それに対して男性が「水色似合ってる」、女性「これから水色しか着ないかも」と照れ臭そうに笑顔で答える。そして女性はポーチを持ち、トイレに向かう。その間、男性は足を組み、顎を手で触りながら待つ。その後、女性が席に戻ってきて、少し会話を続けた後、退店。

②2組目の客の際

カウンターに座る男性Aは大学生（19～21歳）くらい、黒髪の短髪、黒色のトップス。3人の中で一番体つきが良い。イヤホンをつけている。カウンターに座る男性Bは、大学生くらい、茶髪の短髪、赤色のトップス。カウンターに座る男性Cは、大学生くらい、黒髪の短髪、眼鏡、細身。

両隣に座っている男性A、BがPC使い、作業を進めている（課題だと思われる）。Bの隣に座っているCは英語の教材を広げ、勉強をしている。AがBに話しかけるとCもその話に入っていくことが何度か見られる。三人は勉強をするために集まっているようだが、おしゃべりが多く、作業効率が悪いように見えた。

③3組目の客の際

カウンターに座る女性Aは20歳くらい、茶髪ミディアムロング、デニムを履いたラフな格好。

PCを使用して作業を行っている。机の側面に設置されたコンセントを使用してスマートフォンを充電している。PC作業の途中でスマートフォンを手にして、二回シ

ャッター音が聞こえる。その後、PC操作を止め、スマートフォンを操作し始める。5分程度経過したのち、荷物をまとめ退店。

④4組目の客の際

ベッパ―君は、感情認識ヒューマノイドロボット、一歳ぐらい(1年前ぐらいに店に設置)、120cm程度、白いボディに輝く瞳。女性店員Bは、20代後半、黒髪短髪、薄茶の制服、女性店員Aより小柄。

男性店員Aと女性店員Aは楽しそうに会話をしている。その後、女性店員Aが客席のテーブルを拭きに行く。その時、男性店員A「しばらく清掃をしていないや」と言う。

女性店員Aは、お客さんの座っていない席のテーブルを拭いて回り、その後掃き掃除を始める。その時、ちょうど後ろにいたベッパ―君が何かをしゃべりかけたが、女性店員Aは作業を続け、掃除を終えてレジカウンターに入る。

ベッパ―君が「18時ですよ～」と発する。すると、女性店員Bがスタッフルームからレジカウンターに入ってきて、女性店員Aと会話を始める、女性店員Bの声が大きく、店内に響いた。男性店員Aが女性店員Bにレジカウンターにおいて入金出金の誤差がないことを伝え、引継ぎを行う。そして、男性店員Aはスタッフルーム戻っていった。しかし、1分もしないうちに「タンマ!」と言いながらレジカウンターに戻り、水を持って再度スタッフルームに戻っていった。

18:10頃に新規のお客さんが4組訪れ、店員が忙しそうに動き出す。その後、一旦落ち着いたタイミングで女性店員Bは何度か咳をした。しばらくして、スーツに着替えた男性店員Aが喫煙ルームから出てきて、「お疲れさまです」と女性店員A・Bに大きな声で挨拶をして、店を出ていく。この時、私はスーツに着替える前の風貌が10代を思わせるものだった為、喫煙とスーツ姿に驚いた。

【退店】の観察結果:

私は一通り観察を終え、荷物をまとめ始める。お盆に飲み終えたコーヒークラスとお皿をのせ、返却口に置くと、女性店員B「恐れ入ります。」そして私は出口へ向かい退店。

真新しい朱の鳥居があり、絵馬の沢山かかった腰ほどの高さの柵、その前に賽銭箱、そしてその奥に本殿が鎮座している。賽銭箱の両脇にある柵と本殿は陶器の狐で埋め尽くされており、柵の手前にまであふれている。

本殿の前の階段を下ると後ろをぐると回った形で拝殿の横から出ることに、左斜め前にベンチが5脚と社務所がある。社務所の側面には冷茶の入ったウォータージャグと紙コップが設置されていて、その横に透明な小さい箱と、お茶を飲む人へ「志」を求める張り紙がある。更に社務所の奥には澄んだ水の溜まった洞穴、霊狐泉があり、霊狐泉の前には小銭を投げ込まないよとの張り紙があった。

社務所前での観察結果：

拝殿でしばらくお邪魔する旨を申し上げた後、私は社務所前の、日陰になっているベンチの隅に座った。私の座る場所から周囲を見回すと、他のすべてのベンチと出入り口横の祠、そして本殿へ向かう階段が見える。

中年の男性と女性。共にTシャツとパンツとスニーカーにリュック、女性のみ帽子。

拝殿の方から2人がこちらに歩いてくる。息を弾ませた細身の女性が「お茶あるよ」と言いながら真っすぐウォータージャグに向かう。先に私と同じベンチに座った男性が、「それ(志)入れなきゃ」と、ウォータージャグの横にある張り紙を指差す。女性は「うん」と言った後、小さく「あれ?」と呟きながらパンツのポケットを腰、尻と叩きながら探る。その後半分降ろしたリュックを探り、小銭入れから小銭(おそらく10円)を箱へ入れた。お茶をコップに汲み、立ったまま飲む。使用済みの紙コップの置き場所を少し探す素振りを見せた後、ウォータージャグの反対側にあるのに気づき、そこへ紙コップを置いた。その後2人は連れだって本殿の方向へ歩いていった。

40代～50代の女性2人、同年代と見える男性、中学生くらいの少年。そろってTシャツにジーンズにスニーカーだが、男性のみジャケットとパンツ。

社務所で書き置きの御朱印を受け取った黒ぶち眼鏡の少年が社務所横の台で、持参したらしいスティックのりをリュックから取りだす。少年1人で来たのか、と思ったが、少し遅れて来た男性が近寄って来た。男性が、御朱印を御朱印帳にのりで貼り付ける様子を見て「だっさ」と笑っていると、同じく書き置きの御朱印と御朱印帳を持った女性2人がやって来た。四人で何やら喋ったが、聞き取れなかった。彼らはそれぞれ御朱印帳を仕舞うと、古稲荷郡の方へと向かっていった。しばらく後、帰りがけに出口の横にある一回り大きい祠に片方の女性が会釈をしていった。

10代後半男女、20代～30代女性(後に10代後半女性の姉だと判明)、50代女性。後述の通り、非常に近くにいたためあまり観察できずに服装は非常に曖昧。全員パンツに動きやすい靴。

20代の男女が社務所の方へやって来る。私の座るベンチに2人そろって座った。20代と見える女性(以下、妹)が腰を下ろしながら「ここでヒートテック脱いでいいかな」と言い、ごそごそと動いて服の下に肌着だけを脱ぐ。少し遅れてきた女性2人が、

斜め前のベンチに座る。間に挟まれる形になった私は居心地の悪さを感じたが、4人はそのまま話していた。背後にある霊狐泉の方で高らかに鳴く鶯の声の後、妹が「ほんと、うるさいくらい鶯鳴いてるね」と言う。とりとめの話をしてながら一休みしているらしい。妹が「今年前厄かと思ってたら本厄だったんだよね」と言い出す。おそらく彼女の位置から見える、社務所横に貼ってあった厄年の表を見たのだろうと推測する。今年本厄であるならば19歳だろう。彼女が20代女性に「お姉ちゃんも前厄年だったよね」というようなことを尋ねると、姉は「でも厄年だからって何もなかったよ」と答えた。すると、母親と思いき50代女性はそれを受けて「厄年っていうのは、歳だから気を引き締めて、結婚出産もあるから、そういう節目に……」と言う。「あー！なるほど！でもじゃあ男は？」「男は会社で出世とか…」「女の30代はずっと厄年だよな」「子育てとかもあるから」などと話す二人に、妹は茶化すように「なんか真面目な話してる」と少し笑った。

本殿前での観察結果：

社務所横から本殿前を通り、古稲荷郡を回って本殿の脇に立つ。2人の人がなんとか擦れ違えるかどうかという狭さの道で、両脇は草で覆われている。ここで観察するのは少し難しいかもしれない、と考える。

10代後半の女性2人と40代の女性。全員パンツスタイルにスニーカーにリュック。40代女性のみジーンズではなくゆったりした生地のもの。10代後半の女性達は1人が茶髪、もう一人がポニーテール。ごくごく近い位置にいたため、やはりあまりじろじろと見る訳にもいかず、どれが誰の発言かは曖昧。

3人連れだって社務所側から上って来た彼女たちは、上がり切ると少し息を整える。10代女性の一人が棚や本殿に並ぶ陶器の白い狐を眺めて「狐が凄いいね」と言う。右を向いているものと左を向いているものが向かい合わせで並べられていたためか、もう一人の娘が「これ対で売ってるのかな」と言った。その後も、「奥（柵の向こう側）のは昔は自分で置けたのかな」「この辺（柵のこちら側の足元を示しながら）のは自分で置いてるじゃん？」などと、陶器の狐について話す。40代女性が、斜め後ろにある苔むした灯籠と、その上に一つ置かれた狐を見て、「これも綺麗だね」と言った後、10代女性の1人が「縁結びなんだねー」と言い、特に札などはせず古稲荷郡の方へ向かった。彼女らが去った後に確認したところ、賽銭箱の両脇にある棚にはそれぞれ大願成就の木札が下げられており、向かって左のものは「出世開運 縁結 商売繁盛」、右のものは「商売繁昌 縁結び 家内安全」と書かれていた。

20代男性2人。共にTシャツとジーンズとスニーカーとリュック。1人は眼鏡をかけていたためここでは眼鏡の男性、もう一人は短髪だったため短髪の男性と称す。親しげに喋りながら、2人の男性が本殿正面の階段を上って来た。本殿が見えると、会話の途中で眼鏡の男性が「わ、すっげえ」と感嘆の声を上げた。二人で本殿の前に並ぶと、短髪の男性が「怖くう」と言う。本殿を見つめながら、「いいよな狐は神様

になって」と眼鏡の男性が言う。その後少しの間本殿を眺めた彼らは、「縁結びだって」「縁結んでもらいたいよ」などと話しながら、古稲荷郡の方を覗いた。眼鏡の男性が「こっちもいける」と言うと、短髪の男性は「俺はこっちはいいよ」と答える。しかし眼鏡の男性が「えっじゃあ俺ぐるっと回ってきます」と言い歩きだすと、短髪の男性も「えっじゃあ行く」と後に続いた。「何急に元気になってんの」「スーツじゃないから」などと笑いながら、2人は古稲荷郡の方へ向かっていった。

拝殿横での観察結果：

本殿から階段を下り、拝殿横へ戻って来た。昼時だったからか、境内にいる人が一時的に減ったように思う。一時間程度の調査とのことだったので、あと10分ほどで調査を終了しようと考えた。観察していた位置からは見えないが、面白い話が聞けそうな気がして手水舎へ意識的に耳を傾けていた。

70代女性。ごく薄いニットのカーディガン、ズボン。後、観察者が別の人々へ意識を向けた間に移動してしまったため移動先不明。

一時的にだが拝殿周辺から人がいなくなった。息を切らしながらやってきた女性が社務所前のウォータージャグへ向かう。お茶を飲もうとして張り紙を見たのか、コップに伸ばしていた手をハッと引いて、財布を取り出す。「いただきます」とゆっくり言いながら小銭を備え付けの箱に入れ、お茶を飲んだ。

10代少女、10代後半少女、30代？男女。姿はほとんど見えなかったため年齢は非常に曖昧。ほぼ音声のみ。

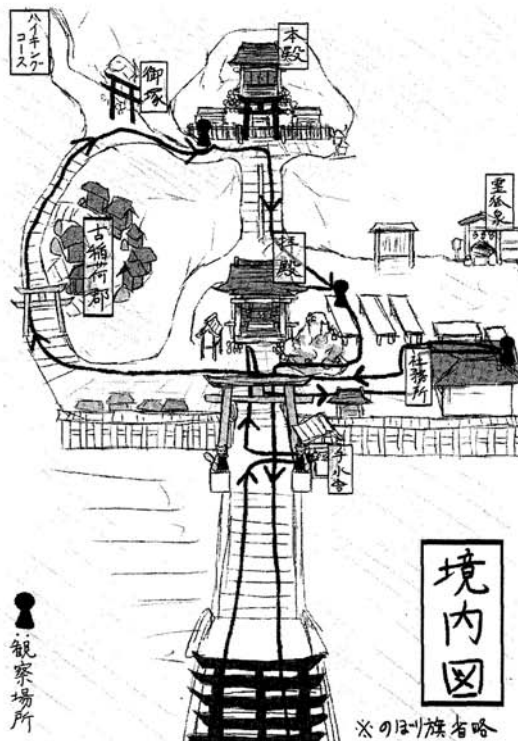
手水舎のほうから10代とみられる少女の声が聞こえる。「手洗わなくていいの？」男性「あー、いいや」男性の答えを受けて、後ろにいるらしい同行者に少女が「〇〇手洗わないんだって」と伝える。〇〇の部分は聞き取れなかった。その後少女が手水を使用したものと思われる水音が一度だけ聞こえた。一度しか聞こえなかったということは、手水の作法に則ってはいないと推測する。先に境内に入っていた男性と少女が並び、少し姿が見えた。少女は本殿周辺の狐の像を見たのか「かわいい」と言った。彼らより少し遅れて、先にいた少女より少し年上と見える少女と女性が合流した。女性は拝殿前に立てかけてある「両手を合わせ静かに目を閉じ…」との文を見たのか、「これあれだ、叩いちゃいけないんだ!」と言い、柏手を打たずに拝殿へ一礼し、揃って奥の古稲荷郡の方へ向かった。

感想：

私が今回調査地を選んだ神社は、以前から幾度も訪れたことのある神社だった。そのため、地形や人の動き方などもある程度知っていたのだが、調査ということで意識的に見回してみると、まるで知らない場所のように見え、不思議に感じた。場所の性質上、長時間居座ってスマートフォンをいじっていても怪しまれるようなことはなかったが、逆にまったく気にも留められず、すぐ隣に座られて上手く観察できない場面もあった。同時に、人々もあちらこちらで動くので、どこを見ればいいのか迷っている

うちに観察していた人々が移動してしまい中途半端で終わることが非常に多かったことや、まとめの間に写真を撮るべきだったと後悔するものが多かったことが残念だった。30～40分程度の観察で済ませるつもりだったが、目移りするほど面白い場面が多く、あっという間に一時間が過ぎてしまった。今回は神社の境内が範囲だったが、例えば、手水舎のみだとか、本殿前のみのもっと狭い範囲で観察してみるのも面白そうだと感じる。

境内図：



4 喫煙スペースを観る

観察者：齊藤愛佳

日時：2017年5月9日（火）11：40～12：20

場所：京王堀之内駅前の喫煙スペース

天気：曇天（涼しいが湿度がやや高い）

人物の観察結果：

ここで記述するのは喫煙スペースに入って来た人物のみで、人の出入りが激しいため簡易的な名前で表す。客観的情報が主である。

(1) 紺アイコス (男) 40代前半。灰皿Rの前。紺色のアイコス。

(2) 白アイコス (男) 20代後半。灰皿Lの前。白色のアイコス。黒い短髪(前髪あり)で眉は整えられており山型。薄い青色のストライプのシャツに紺色のスーツ(光沢のあるボタンの付いた上着、ストライプのズボン)。銀色のバックルが付いた先の尖った黒色の革靴。A4サイズが入るくらいの四角い黒色の鞆。

(3) ストライプ (男) 40代前半。灰皿Rの奥。禿げ上がっており、後頭部に1cmもないくらいの短い白髪が生えている。黒縁メガネ。青色のストライプの長袖シャツ。

(4) リング (男) 50代。灰皿Rの奥。青色のハイライト。小太り。襟の縁のみ黒色の白色の半袖シャツ。シャツの胸ポケットにスマートフォンを入れており、スマートフォン用のリングがポケットから出ている。黒色のズボンを履いているが裾が短く白色の靴下が見えている。背中全体を覆うくらいの大きなリュックサックを背負っており、その左ポケットには2口程飲んだお〜いお茶濃い茶が入っている。金色の結婚指輪。

(5) ブレンディ (女) 40代～50代。灰皿Lの前。黒い髪をハーフアップにしている。グレーのパーカー。ジーンズ。茶色の靴。茶色の鞆。京王堀之内駅前のスーパー三和の袋を持っており、袋の底から無糖のブレンディ 1Lのペットボトルが透けて見える。

(6) 白黒メガネ (男) 40代～50代。灰皿Lの前。短髪。柄の部分に白色のポイントが入った黒縁メガネ。青色ストライプの長袖シャツ。黒い手帳型のケースに入ったスマートフォン。銀色の結婚指輪。

(7) がっちり (男) 40代～50代。灰皿Lの前。がっちりとした体格。白地に側面に青色の箱のタバコ。色黒。短髪(前髪なし)。黒色のスーツ上下。黒色の靴。右手の指の付け根に黒ずんだタコが3つ程。

(8) エプロン (男) 20代後半。灰皿Rの奥。金色のZippo。黒い短髪だが、毛先がうねっている。エプロンの上に白黒の細かいブロックチェックのパーカー(ファスナーが閉まった状態)。灰色のズボン。灰色のニューバランスのスニーカー。

(9) 缶 (男) 20代半ば。灰皿Lの奥。黒い短髪。黒色のTシャツをカーキのズボンに入れ、黒色のブルゾンを羽織っている。灰色のスニーカー。黒色のボディバッグを胸元につけ、ビニール袋と白色と金色の缶(コーヒー?)を持っている。

(10) 大きな鞆 (男) 50代。灰皿Lの前。薄毛。青色のストライプの長袖シャツ。銀色の腕時計。30cm×20cmくらいのパンパンになった大きな鞆を肩からかけている。

(11) ピンク (女) 50代。灰皿Rの前。黒い髪を紺色と白色のボーダーのシュシュでハーフアップにしている。白地に小さな+の模様が全体的にプリントされたチュニックにピンク色のカーディガンを羽織っている。薄い茶色のズボン。側面が赤色と茶色のチェック柄になっているページのスリッポン。赤色と茶色のチェック柄のエコバッグ。黒色と赤色の傘。

(12) フワフワ(女) 50代～60代。灰皿Lの前。白髪染めをしているが、白髪交じりで細くフワフワとした肩くらいの長さの茶髪。青色と茶色の花柄のトップス。ジーンズ。カーキのスリッポン。青色と茶色のチェック柄の弁当入れのような鞆。

(13) オールアップ(女) 30代後半～40代前半。灰皿Lの左側。黒地に水色や緑色、赤色の水玉模様タバコケース。ラインストーン付きの黒色のクリップで黒い髪をオールアップにまとめている。ベージュのジャケット。カーキのふくらはぎ丈のズボン。デニム地のローファー。ピンク色の丸みのある鞆。黒色の四角い小さな鞆。白色のキャンバス地のもっと小さなトートバッグ。黒色の手帳型ケースに入ったスマートフォン。銀色の結婚指輪。

(14) 作業着(男) 50代後半～60代。入口付近、2つの緑色の機械の間。禿げ上がっている。青色のシャツに青色のズボンの作業着。

(15) もぐもぐ(男) 50代後半～60代。灰皿Lの奥、柵にもたれている。濃い青色の作業着。黒色のスニーカー。ずっともぐもぐしている。

(16) 赤ネクタイ(男) 20代後半。灰皿Lの奥。黒い短髪。黒縁メガネ。赤地に白色と青色のストライプのネクタイ。銀色の腕時計。

(17) 赤ケース(女) 30代。灰皿Lの前。赤色のタバコケース。黒いショートヘア。黒色のカーディガン。黒色のズボン。黒色に少し水色の入った靴。

(18) 即退出(男) 50代。入口付近。メガネ。黒色のストライプのスーツ上下。茶色の靴。喫煙所滞在時間約30秒。

(19) ボーダー(男) 20代後半～30代前半。入口付近。黒い短髪。ボーダーのTシャツの下に灰色の薄手の長袖シャツを腕まくり。黒色のリュックサック。

(20) ホコリ(男) 30代。灰皿Rの前。小太り。うねりのある黒髪。紺色のストライプのスーツ上下。銀色のイヤホン。背中に白色の埃が一つ付いている。

(21) 1:9^{イチキュー}(男) 40代。灰皿Rの奥。薄毛で前髪を1:9分けにしている。黒色のTシャツ。黒色のボディバッグ。

(22) レッドブル(男) 20代後半。灰皿Rの右側。メビウスオプション1mmをメビウスのロゴが入ったケースに入れている。黒い短髪。黒縁メガネ。黒色を基調としたシャカシャカ素材のパーカー。ジーンズ。PUMAの黒色のスニーカー。アウトドアの手提げ。アップルウォッチ。レッドブルの缶を持っている。

(23) 紫(男) 30代。黒い短髪。紫色のトレーナー。灰色のスウェット地のズボン。

(24) 緑(男) 60代。灰皿Lの前。がっちりとした体格。白髪交じりでやや長めの髪。メガネ。緑色のスーツ上下。

(25) A(男) 40代。灰皿Lの前。B(男)と話しながら喫煙スペースに入って来る。薄毛で白髪交じり、坊主に近い。白色の半袖シャツ。

(26) B(男) 40代。灰皿Lの前。A(男)と並び、比較するとAよりも細身。薄毛で坊主に近い。白色の半袖シャツ。黒色のズボン。銀色の腕時計。

(27) キャップ(男) 20代。灰皿Lの左側。白色のアルファベットが中央にある黒色のキャップ。白色の羽根のような大きな模様がプリントされた黒いTシャツ。灰色の半ズボン。茶色の靴。午後の紅茶の温かいミルクティーのペットボトルを持っている。

時系列的な観察結果：

11：40、京王堀之内駅前の喫煙スペースに入っていく。足を踏み入れた途端、独特な香ばしい香りが鼻孔をくすぐる。父親がアイコスを吸っているのもそれがアイコスの香りであるとすぐにわかる。駅前であるため、電車の音、改札のアナウンスの声、ロータリーを通過するタクシーやバスの音で静かとは言い難い。入口から見て一番奥に立つ。喫煙スペースを見渡すと既に3人の男性がいた。紺アイコスと白アイコスとストライプだ。「普段喫煙所で他人を見ることは無かったな」と思いながらタバコに火をつけ、吸い始めると紺アイコスは喫煙スペースから出て行く。ストライプは柵にもたれかかっていたがすぐに後ろを向き、出て行く。白アイコスはA4サイズが入るくらいの黒色の四角い鞆を地面に置き、足元に挟み、ずっとスマートフォンを操作している。白アイコスは髪型や服装、靴の雰囲気からおしゃれに気を遣う人間のように見える。山型の眉はスポーツマンを彷彿とさせ、いかにも彼女がいそう、モテそうといった印象を受ける。白アイコスが吸殻を灰皿に捨てて出て行く。入口付近の樹木との対比から彼の身長は160cm台で低めであると感じる。すぐにリングが入って来る。奥のほうに進み、しかめっ面をしながらタバコに火をつける。落ち着きなく柵側をうろうろし、1分足らずで灰皿Lの左側で2本目のタバコを吸い始める。喫煙スペースを見渡すと、灰皿Lの右側に白色の箱のメビウスが落ちており、Lの前のついたてに水色のライターが乗っている。

11：45、ブレンディが入って来る。女性の喫煙者は珍しいイメージがあり、とっさに「あ、女性だ」と感じる。無糖のブレンディのペットボトルが入ったビニール袋を置き、ロータリーをばっつと見つめながらタバコに火をつける。恐らくスーパーで買い物していたのであろう。一方でリングはスマートフォンを操作し始める。その後ブレンディは灰皿の網に6回程タバコを強く擦り付け、しっかりと火を消した後にタバコを灰皿に捨て、出て行く。彼女は几帳面な性格なのかもしれない。続いてリングがスマートフォンを操作しながら出て行く。その時、彼の足元の白色に目が行き、丈の短いズボンから靴下が見えていることが分かった。

その後すぐに白黒メガネがスマートフォンを操作しながら入って来る。左手でタバコを持ち、「すう〜」と音を立てて息を吐きながら唇を尖らせている。タバコを吸い終えた白黒メガネはすぐに出て行く。誰もいなくなったため、目の前の緑色ばかりの花壇に目をやるとスズメが1匹左側から右側へ移動している。スズメを見ているとがっちりが入って来る。スーツも全身黒色であったため「黒!」と思う。がっちりは、喫煙しながら左手で歯に挟まっているのであろう食べかすを取り始める。がっちりは

食べかすを取り終え、右手でタバコを灰皿Lに捨てる。その時右手にタコがあることに気づく。「なんのタコだろう」と考えるが想像がつかない。がっちは2本目を吸い始めるのと同時に、目の前のロータリーを歩いていたハトが飛び、白バイが2台通過する。頭上の線路から電車のブレーキ音も聞こえる。いつの間にかがっちはいなくなっていた。

11:49、エプロンが入って来る。ファスナーの閉まったパーカーの中の前側中央部分のみベージュの布が出ており、「変わったファッションだな」と思ったが、灰皿Rの右側で灰皿Rを見るような位置に立ち、パーカーの後ろの裾から紐が見えたため、それがエプロンだとわかる。色からして恐らく改札付近のパン屋のエプロンであろう。彼はタバコを吸いながらスマートフォンを出し、すぐにしまい、またすぐに出して操作し始めた。しまってからしなければならないことを思い出したのであろうか。その後右足を左に交差する。立ち仕事で足が疲れていたのかもしれない。

11:51、缶が入って来る。改札付近の売店か駅前のファミリーマートのどちらかで買ったのであろう缶コーヒー（恐らくファイヤーの金色の商品）をビニール袋から出し、「プシュッ」という音を響かせ、飲みながらタバコを吸い始める。ロックバンドが好きな年上の友人に髪型と顔が似ている。ここでエプロンは2本目のタバコに金色のZippoで火をつけ、やがて出て行く。

11:52、パンパンになった大きな黒い鞆を肩から提げた大きな鞆が入って来る。彼は大きな荷物を前屈みの姿勢で持つ。入れ替わりで缶は最後の一口を飲み干し出て行く。この時彼の持っていた缶が金色ではなく白色を基調としたものであると気づく。

11:53、ピンクが入って来る。50代くらいの年齢で、少し太り気味で、丁寧に化粧しているわけではないが、ピンク色のカーディガンを着ている。その後フワフワが入って来る。彼女は痩せており、薄く細い髪をフワフワとさせている。この時喫煙スペースには女性が3人、「女だけだ」と思うと同時に「タバコ顔」という言葉が頭をよぎる。表情のせいかもしれないが、ピンクもフワフワも疲れたようなくすんだ顔をしている。先にピンクが出て行く。この時彼女が黒色と赤色の小さめの傘を持っていることに気づく。「日傘だろうか、雨傘なら相当用心深い人なのかもしれない」と感じる。夜の雨予報に備えているのだろうか。そしてフワフワに目をやると、彼女は左手を右側の脇腹に当て、腕組みのような状態で喫煙している。数秒間、左手の指をピアノを弾くようにまばらに動かし、タバコを灰皿に捨て、出て行く。

11:56、オールアップが入って来る。彼女は丸みを帯びたピンク色の鞆の中に手をつっ込み、30秒ほどごそごそとやっている。ようやく見つかり黒地にカラフルな水色模様がプリントされた縦長のポーチからタバコを取り出し、吸い始める。喫煙スペースのついたての反対側で男の声がする。ついたてから見える影が一人であったため電話中であろう。男の声はすぐに遠くへ行った。オールアップはスマートフォンをポケットから出し、左手で持ち、タバコを持つ右手で操作する。人差し指と中指でタバ

コを挟み、薬指でスマートフォンの画面を操作する。彼女は肩からピンク色の鞆をかけ、左腕には黒色の四角い鞆と白色の小さなキャンバス地のトートバッグを持っており、「重そうだな」と感じる。ここでまた後方から通話中の男の音がする。影が先程の男よりも太っているため別の男であろう。「処理が進んでおります」という言葉が聞き取れる。仕事の電話だと推測する。彼が通り過ぎると、「ねえ〜」と言い合う声が聞こえる。話のスピード、声質から60代のくらいのおばさん2人と推測する。

12:00、作業着が入口付近の緑色の機械の方に入っていく。初めは何をしているのかと思うが、12:01、京王相模原線区間急行本八幡行の電車が発車する音を聞くのとほぼ同時に灰皿に灰を捨てに来る。灰皿の前は混雑しているわけではないのにわざわざ奥で吸うなんて変わっていると考えていると目の前をタクシーが2台通過する。そのまま正面を向いたままにしていると、ロータリーの奥の横断歩道を白色の半袖Tシャツの女性が走って渡っている。腕を大きく振っている様子から電車に乗り遅れないために走っているのかと思いきや、次に駅とは反対側の横断歩道を渡り始める。横断歩道の信号が変わりそうで走っていたのだと推測する。ここで作業着は出て行き、オールアップは2本目に火をつける。周りは静かになり、「当駅は、終日、全面禁煙となっております」という駅のアナウンスや、改札の「ピンポン、ピンポン」という音が聞こえる。オールアップは先程からずっとスマートフォンを操作している。京王のバスがロータリーに入ってきて、右側を通過する。

12:04、通過電車の音が響く。

12:05、「ピーッ、ピーッ」という音と共に先程通過したバスが停車する。その後もぐもぐが入ってくる。柵にもたれ、灰皿に背を向けた状態で何か食べているのか、もぐもぐしている。しかし彼の手には食べ物がなく、最後の一口を頬張って咀嚼しながら来たのかと思う。オールアップは出て行く。「バサバサッ」と鳥が羽ばたく音がして、もぐもぐの目の前を鳥が5羽程飛んで行く。もぐもぐは首を右に回し、鳥たちを見る。

12:06、「チェッチェツ」と舌打ちのような音をもぐもぐは発する。無表情で柵にもたれかかっている状態であったため、何かにいら立っているという舌打ちではなさそうだと思う。食後で口に違和感があったのだろうか。そしてもぐもぐは右腕のみ大きく振りながら出て行く。

12:09、赤ネクタイが入ってきて、スクワットのように一度だけ一瞬しゃがんでから立ち上がり、左腕に装着している腕時計を見て、タバコに火をつける。何か落として拾ったのだろうか。続けて赤ケースが入ってくる。12:08に電車が到着したため、下車した人々であると推測する。赤ケースは赤いポーチからタバコを取り出し、吸い始める。赤ネクタイは鼻をすする。

12:10、即退出とボーダーが入ってくる。赤ケースは出て行く。即退出も出て行く。ホコリと1:9が入ってきて、続々と人が入ってくると感じる。正午過ぎ、お昼休みが関係しているのだろうか。彼らは黙々と喫煙している。

12:12、レッドブルがレッドブルを飲みながら入って来て、ボーダーが出て行く。続いてホコリが入口の方を向いて、地面に置いていた鞆をかがんで取ろうとした時、彼の背中の中のエに気づいた。この時紫が喫煙スペースに入って、灰皿Lに吸殻を捨ててすぐに出て行く。レッドブルは咳をする。そのまま彼を少し見ているとアップルウォッチを装着していることに気づく。黒色を基調とした幾何学模様のパーカーのせいもあってか、最先端な感じがする。俗にいう意識高い系を彷彿とさせる。

12:12、緑が入って来る。抹茶のような色のスーツで、これまで観察した人々の中では浮いた色合いである。「ピーッ、ピーッ」とまたバスが駐車する音が聞こえ、レッドブルはバスを見始める。彼はメビウスオプション1mmが入ったメビウスのポーチを持っている。

12:15、男が2人、AとBが話しながら入って来る。もう1人キャップが入って来る。レッドブルは2本目を吸い始める。A「僕はそのまま直帰」B「〜〜（聞き取れない）」A「よかった」と会話している。ここで緑は出て行く。A「新宿…神保町のホテル行って…」断片的にしか会話が聞こえない。1:9は咳払いをし、立ち去る。続けてレッドブルも缶を飲み干して出る。AとBは会話中で、Bは正面を指さす。こちらからだとアイセイ薬局を指さしているように見えるが実際はどこを表しているのだろうか。一方でキャップは入口付近の緑色の機械の右側の方に午後の紅茶温かいミルクティーを置き、左手でタバコを吸い、右手でスマートフォンを操作している。AがBを残して喫煙スペースを後にする。Bはタバコを吸いながらしきりに腕時計を見て、吸殻を捨て、右足から歩き出して出る。続いてキャップもペットボトルを持って出て行く。誰もいなくなり、灰皿等スケッチする。

12:20、観察終了。喫煙スペースを出る。

喫煙スペース付近の図：

(省略)

5 喫茶店を観る

観察者：阪上葵

日時：①4月26日16:20～、②5月9日17:10～、③5月9日20:30～

場所：①JR町田駅のマイル内の喫茶店P、②南大沢アウトレット内の喫茶店T、③町田駅の喫茶店S

①の観察結果：

自分が座っている席は向かい合って座る2人用の席。一番右、エスカレーターが見えるガラス側。左側に同じタイプの席が4つあり、二つ隣は二つをくっつけて3人のお客さんが座っている。

ネクタイをしていないがスーツの若い男性と女性2人とが向き合っている。この女性2人組は私服で、年齢は30代後半から40代前半とみられる。「精神病」「薬」「健康、

脳に作用する」などのワードが聞こえる。「うちの特徴は～多くの都会の企業は～」という言葉も聞こえるので商談か何かのようだ。左隣には40代後半から50代前後と思われる女性が座っており、先ほどまで手帳に何やら書き込んでいたが今は本を読んでいる。注文はホットのカップドリンカー一品のようだ。

店内にはささやかな音量でBGMが流れている。トランペットが目立つ賑やか目の音楽だ。一つ隣の商談中(仮)の3人のうちの男性の声が一番大きく、そこに時折2人の女性の賑やかな笑い声が混ざる。この声は目の前にある大きなテーブルに並んで座っている2人のものだ。

5人ずつが向き合って座る大きなテーブルで、今は一番右端、私と向き合う位置に女性が1人(A)、その斜め前、私に背を向けている女性が1人(B)、彼女から席を二つ開けた一番左端に女性が1人(C)、その向かい二つに例の女性2人組(DE)が座っている。

商談男が盛り上がってきた。どうやら女性2人に菓子を勧めているらしい。ネクタイをしていない上に会社員にしては髪色が明るく胡散臭い感じが強い。私の隣の女性は3人組がいる方に背を向けそちら側に肘を付いて本を読んでいる。若干うるさそう。

Cは私と同じようにMacを広げている。注文はイチゴのミルクレープとホットのコーヒーのようだ。中性的な顔立ちの女性だ。イヤホンをしている。コンセントに充電プラグをつないでいる。

DEはそれぞれ飲み物とケーキを頼んでいて、まずはケーキを食べている。やがて食べ終わるとスマホをそれぞれ片手に話しだした。

②の観察結果：

店内の禁煙スペース、いまお客さんは自分の他に7組。カップルと思しき男女が3組と多く、白いブラウスに紺のジャケットを羽織った仕事の中のひと休みのような女性が1人、奥の窓辺の席でイヤホンをつけてスマホを触っているこちらもYシャツで上着を脱いだ会社員らしき男性が1人、いまベビーカーを押した家族が一組入ってきて、レジでは大学生らしき女性が1人注文している。

レジとショーケースの向かいにある2人がけの席には一つずつ開けてお客さんが座っている。スマホを付き合わせて話している人や、小さいテーブルにスマホを持った肘を付いてお互い黙っている2人組もいた。店内にはBGMが流れている。座った席が悪かったのか、BGMに紛れて周囲の会話がよく聞こえなかった。

③の観察結果：

夜の町田、いくつか喫茶店Sがあるこの街で、この時間にこの場所を選んできた人々はどうのように過ごしているのか。

このSは2階建てで、1Fにカウンターと少し席があって、中二階のようなところにも席がある。2Fに登ると広いスペースがあり、階段を上がってすぐ左手に丸いテーブルと二つの椅子のセットが4つ、その隣に4人ずつが向き合う形になった大きな長

方形のテーブルがある。そこにはコンセントが付いていて充電することができる。今回はできるだけ全体を見渡せるように端の2人用のテーブルを選んだ。

今回はまず大きな長方形のテーブル（次からMacゾーンと呼ぶ）に注目した。時刻は21時半。こちらと向き合う方の席、左から順に女子高生が2人、その隣にメガネの坂口健太郎似の男性（サカグチさん）。一番右端の席は空いている。こちらに背を向けている側は左から白いシャツの若めの男性、あいて、柄シャツのメガネの男性、その連れらしき女性（イヤホンをしている）。基本どのお客さんも飲み物がなくなっているが構わず各々何かをしている。ここは町田のスタバの中でも電源があり尚且つ席数が多めなので、周囲を気にせずゆったり作業できるようだ。

Macゾーンにはその名にふさわしくMacを開いている人が今4人もいる。と書いているうちに女子高生2人がMacゾーンから右側の席に移動した。しばらくすると、金髪の女性がMacゾーンの一番左側、窓際の席に座った。

その隣にメガネの少し太った男性がホットのドリンクを置いて座った。Macを広げる。イヤホンをして作業し始めた。時折指をくわえている。癖のようだ。先ほどからずっといるサカグチさん（仮）は私がきた時には右から二番目の席に座っていたのに、今は一番右端の席に座っている。時々ふうううと息を吐いている。画面をみながら集中して作業しているようだが、人が通るたびに顔を上げて周囲に視線を走らせている。この時間になってだんだんと人が減ってきた。会話している人もいるが、そこまでうるさくはない。

22時前、女子高生2人組が帰っていった。

Macをしていない人は、読書か何かの勉強かスマホを触っている。私の右隣の席に一人で座っている女性はオフショルダーのトップスにサンダル、向かいの席にリュックを置いている。先ほどまで熱心に友人宛らしき誕生日のメッセージカードを書いていた。今はプリントをテーブルに広げ勉強をしている。飲み物は空になっている。

スーツ姿の会社帰りらしい人は3人だけで、あとは見た目の年齢から学生が多そうだ。22時になって、隣の女性が片付けを始めた。

感想：

今回は普段から自分がよく利用し、身近な場所であり、また1人で長時間いても怪しくみられない場所であるカフェを参与観察の練習場所として選んだが、結果、あまり面白い観察内容は得られなかった。場所を変えて何度か行ったが、どこを見るか、どう切り取るか、という点について定まり切らず難しさを感じた。また人が多いことがカフェでの観察の難点としてアドバイスをいただいていたが、人数の大小に関わらず動きがなさすぎて観察側のこちらが飽きてしまう場面があった。観察をするときはなんらかの興味関心、疑問などから起こす観察テーマのようなものがあつたほうが観察として内容が充実するのか、疑問に思った。今回は一回一回の観察時間を長く取ることができなかったのも、より長時間その場にいれば観察内容もまた変わってきたか

もしれないと感じた。

6 部室を観る

観察者：榊原英太郎

日時：2017年5月2日（火）

場所：首都大学東京サークル棟207室（ワンダーフォーゲル部部室）

観察結果：

15：00、榊原、部室に着く。金属製で灰色の重いドアを開けると、まず足元に部員の靴が散乱しているのが目に入り靴の脱ぎ場に困る。部屋の真ん中にある正方形の机の、向かって右側で漫画を読んでいた様子の二年生Iと目が合う。「こんにちは。」と挨拶されたので反射的に「おお、こんにちは。」と挨拶し返す。彼は目を見開き笑いながら挨拶をしたが、私は、それは彼が、部会が18：00から開始するところを15：00という早い時間に誰か来るということを予期していなかったからだと推測した。実際私も、いつもなら4限に授業が入っているところをこの日はちょうどその授業が休講だったため早い時間に部室に着いてしまったのである。足元を整理しながら右手のそばにあるスイッチを押して電気をつける。Iの手にある漫画の表紙には「ひなまつり」という題名、「ヤクザ×サイキック」という副題。3巻である。そして彼の目の前の机の上には1巻と2巻が積んである。

榊原：「いつもこんな早く部室来てるの？」

I（二年）：「いつも火曜日は二限だけなんです。でも今日は友達と安楽亭で食事をしたあと（図書館で）宿題やろうと思ってたんですけど、富士見台公園を通ったら部室の方が近くなったので…。（火曜日は）いつも時間潰してるんですよ…。」

軽く談笑しながら彼の着ている服を見る。灰色の地にピンク色の英語が筆記体で描かれた長袖のTシャツと水色のジーンズ。彼自身は小柄で黒髪の短髪。私は折りたたまれていない折りたたみ式のイスをまたいで奥側の木製のイスに座り、Iには特に説明をせず一連の出来事をメモする。

15：15、私はテレビの電源を入れwiiのスイッチを押しスマブラ（ゲーム）のスタート画面をつける。以後ずっと部室にこのゲームのテーマ曲が流れている。とくにこのゲームをするわけでもなく、Iに話しかける。Iはいつの間にか漫画を読むのをやめ、地形図に蛍光ペンでマーキングしていた。

榊原：「あのザック（見覚えのない明るい水色）はUくん（去年退部した二年生）の…？」

I：「そうです。（新入生に貸すために）Uくんが貸してくれました。」

榊原：「申し訳ないな…。なにかお礼しなきゃな。」

I：「いや、多分大丈夫だと思います。」

榊原：「Uくんいつかまた山いくのかな…？」

I：「夏休みに入ったら二人で一緒に富士山に行こうとしてます。」

榊原：「でも富士山って我々も今年行こうとしてるじゃん。」

I：「そうなんですか…！？」

そこで会話は終わり、Iは再び地形図を眺め始める。本当に地形図になにか用があったのか、それとも私から視線を外すためにそうしたのかは分からない。日差しは暖かく、風は涼しい。一年の中で最も良い季節だと感じる。窓の外には誰もいない芝のグラウンドがネット越しに見える。入り口側から、誰かが下の階で水を使う音がする。

15：30、I、何かの青色のビニール袋を几帳面にきれいにたたみ始める。何かに再利用するつもりなのかと推測したが理由はとくに訊かなかった。その後Iはリュックから電子辞書を取り出し、なにかの英文を訳し始めた。私はさっきつけたゲームの音はIに迷惑だろうかと思いながらこの部室の構図をメモし始める。

16：00、入り口の扉が開き、三年生のTが入って来る。白いTシャツと黒いジーンズを履いており、中肉中背。黒髪にツヤがある。形式的にIが挨拶しTが挨拶を返す。Tは折りたたみ式のイスの上に座る。

T（三年）：「えいちゃん（榊原のこと）筋トレしようよ。」

榊原：「あー、今日着るもの持ってきてないから…。これからやるの？」

T：「えいちゃんやらないならいいや。」

榊原：「いや、やろう。」

T：「やらない。もう決めた。」

T、斜めがけのカバンから出した課題と思しきなにかの文章を読み始める。その後、三人で次の山行の参加者が多いことについて少し談笑する。

16：15、入り口の扉は開いたままだったので、いきなり三年生のMが現れる。白いシャツと黒いチノパンをはいている。背が高くてスタイルが良く、黒縁のメガネをかけており、髪は黒髪の短髪である。彼はいつもニコニコしている。彼は入り口近くの長方形の机のTの反対側に座る。

T：「M、筋トレいけない？」

M（三年）：「だめだよ、今萎えぼよだから。」

榊原：「だから俺行くて。今日はランニングできなくてうずうずしてるんだ。」

T：「それは筋トレで発散するべき。」

M：「それパワリフのとなりでやろうとしてるんでしょ？絶対ばかにされんじゃん。」

T：「なんでM萎えぼよなの？」

M：「実験ミスった。」

今の会話のメモを取りながら、しばらくMが失敗したダニエル電池の実験についての説明を身振り手振りで受ける。理系は大変なのだなと感じる。その後結局Tは筋

トレに行こうとはせず、四人で先ほども話題に上がった次の山行のルートや残雪について話し談笑する。やはり今の部員の関心ごとは次週に迫っている、新入生を初めて連れて行く合宿にあるようである。

16:20、新入生のSが入って来る。彼も靴の置き場に一瞬戸惑い、他の人の靴を少し整理する。長身で水色のジーンズ、灰色のパーカー、黒髪でメガネをかけている。肌が白い。Sが挨拶をするより先に私が彼に挨拶をする。他の上級生とSがバラバラと挨拶をする。彼は少しためらいがちに入り口側の木製のイスに座る。私から彼に話しかける。彼は緊張した様子で返答する。

榊原:「〇〇くん? (Sの名字)」

S:「そうです、名前覚えてくれてありがとうございます。」

T:「〇〇〇〇くん? (Sのフルネーム)」

S:「おお、ありがとうございます!」

私はSのこの一連の様子をメモする。

16:25、気づくと新入生のKが入り口に立ったままTと話している。Kは入り口付近に座っていたTとMにだけ軽く挨拶をしたようである。そしてTに「鍵もらっているか?」と言うとTがKに何かの鍵をわたし、Kはどこかへ行ってしまふ。彼は白と青のボーダー柄のTシャツの上に青いシャツをはおり、白い短パンを履いている。それに加えてとても日焼けしているせいか、夏っぽい印象を受ける。背は低めだが体はがっしりしている。黒髪短髪。私は記録を取りながら、ここにきて急に人が集まり始めたと思ったが、時計を見てちょうど4限が終わった人たちが集まったのだろうと考える。

16:30、Sが膝の上に載せたパソコンでなにが作成し始めたので、私はきつとなにかのレポート課題でもやっているのだろうと思いつつ何をしているのか尋ねると、母校から頼まれた受験体験記を書いているのだという。その後彼はその合格体験記をつくり続ける。彼を除いた四人で行ってみたい山の話が始まる。

16:45、新入生のKが戻って来る。Kは私とSの間に腰掛け私と、その前の週に部で行った筑波山について話す。その間、IとMは学科の教授の話で盛り上がり、Tは部員の似顔絵を描いているのが見える。Kが私の手元にあるレポート用紙を覗き込んでくるが私は彼にその内容を明らかにしない。私がこの参与観察を通じて彼らに観察していることを明かさなかったのは、なんでもない彼らの日常を捉えたかったためであるが、それが調査をする上で許されることなのかどうか不安である。彼は私のレポート用紙からは早々に興味をなくし、私をずっとテレビの画面についていたゲームに誘う。もう少し観察したほうがいいのではないかという気持ちが一瞬湧き上がるも、新入生と一緒にゲームをする誘惑には勝てない。Sも誘い、コントローラーを渡す。そこで参与観察は終了する。

7 電車の車内を観る

観察者：高村真登

日時：5月5日（金）12：03～12：40

場所：京王線準特急、南大沢―新宿（2分遅延）、9号車2番ドア、進行方向右側の座席一列（七席分）。はじめは左右両方の観察を計画していたが一人一人の情報量が希薄になると感じ京王永山あたりで計画を変更。

大都会東京では電車なしに暮らしていくことはほとんどない。つまり電車に乗る人はそれぞれ目的も性格もさまざまであると予測した。さらに自分自身電車内でどのように過ごす人が多いのか、降りる駅が近づくときどのような行動をとるのかなどに興味があり場所を決めた。

区間ごとの観察結果：

座席順で奥から①～⑦と対象者を番号で呼ぶ

【南大沢―京王多摩センター 12：03～12：06】

①青イヤホンをつけた40代くらいの男性。カーキ長袖シャツにジーパン汚れ目の白いスニーカーを履いていた。ギターのケースを足で挟んでいたところからバンドなど音楽活動をしていると思われる。スマホをスライドしている。花粉症なのか3秒に1回くらい鼻すする。京王多摩センター駅を出発してすぐ目を閉じてしまった。そこから新宿まで目覚めることはなかった。

③35歳くらいの女性。白黒ボーダーシャツを着てジーパン、黒靴というファッション。黒のポーチを抱えている。髪は白金、手を前で組み、足で水色の縦40センチ横50センチほどの荷物を足の間に挟んで寝ている。

【京王多摩センター―京王永山 12：07～12：09】

⑤華奢な体つきでかなり明るめの茶髪でツーブロックにしており、派手目のガラのシャツにタイトな黒のパンツに革靴で、いかにも下北沢などにいそうなおしゃれな若者。年は大体自分と同じくらいの男性。イヤホンは白、iPhoneのではない。機種はiPhone5かそれ以前と大きさから推測する。ファッションは先端でも物は大事にするタイプ、もしくは親が厳しいのかと考えた。黒バック抱えおり、時々鼻をすすり、そのあと手で鼻をこする。ほとんどケータイをスライドしないでじっと見ていることから動画を見ているのではないかと感じた。

【京王永山―京王稲田堤 12：09～12：15】

⑦20代後半の男性。半袖黒ティーシャツに白の腕時計をして真っ赤なスニーカーを履いている。ガタイとても良く金色のネックレスをしていた。黒バックに黒イヤホンをしてジーパンはタイト目のものを履いていた。バックを前で抱えて寝ていた。時々目を開けて駅名が表示されている画面を見ることから寝てはいるものの降りる駅を気にしている感じ、新宿まで行くとは思えない。だが結局、新宿までいった。

②35歳くらいの男性。灰色Tシャツにチノパン。黒上着を前で抱えて、茶色のバ

ックを膝ではさんでいる。染髪はなし。ケータイをずっとスライドしてツイッターを見ていた。多摩センターでのり、稲田堤で降りた。立つと慎重は170センチくらい、稲田堤ですぐに明るい茶色の男性が座る。

【京王稲田堤―調布 12:16～12:19】

新②25歳前後の男性。柄のシャツをきて黒パン、黒の革靴、赤のトートバッグ、スマホのイヤホンを使用していた。

④50代女性。切符ユーザー、紺色な薄いニットで濃い目の紺色のスカートをはき、灰色のパンプスのつま先に花が3つついている、ピンクゴールドのカバンでイガイガがついている。持ち物や洋服から非常にさりばやかで派手好きな印象。前でポーチ抱えて金色のスマホをいじる、カバーは透明、右手で支えて左手で動かしている、左利きか。ワインレッドのメガネに、首には金色ネックレスと銀の首輪メイクはそこまで濃くない。

【調布―千歳烏山 12:20～12:27（停止信号の影響で約2分遅延）】

7人が座っており、うち男性5人女性2人。足を組んでいるのは⑤のおばさんのみ。ケータイをいじっているのは②～⑤の4人。他は睡眠、イヤホンをつけているのは5人で全員男性、寝ていた3人は寝相がよい。隣の人によりかかることはなかった。

⑥40代手前の男性。髪が少し薄くなっている。多摩センターで乗ってきた。イヤホンを耳のすごい奥まで入れていて、痛そう。他人と比較しても耳にフィットさせる丸みを帯びた部分がまるで見えない。音量小さくして奥まで入れているのかと推測する。マスクをしている、水色のシャツ長袖に黒のジーパン、白の靴。灰色の上着と黒の肩掛け鞆を抱えている、後ろに頭をつけずに垂直に寝ている。後ろにも横にも寄りかからず誰にも迷惑のかからない寝方。つめがとても短い、白い部分がうっすらある程度。几帳面にきっているのか。

【千歳烏山―明大前 12:28～12:32】

千歳烏山で大量に人が乗って来たので前目に移動。

⑦起床、ヒゲを揃えている。顔だちもはっきりしていて、強そう。iPhoneのカバーは茶色。左手で頬づえをしていた。

④ゴールドおばさんはヤフーニュースを調べているが字は大きめに設定、明大前で2.3が降りる。

【明大前―笹塚 12:33～12:35】

全体的にみて若者は染髪している、春という季節の影響も考えられる。見た目が30代以下である7人のうち6人が染髪をしていた。そのうち4人茶色、1人灰色アッシュ、もう一人が白金、染めてない⑦は黒の帽子をかぶっている。

【笹塚―新宿 12:36～12:40】

新②千歳烏山で乗車したオレンジTシャツを着た40代ほどの女性は寝もせず、ケータイを触らず、トートバッグ抱えて、前を見ているだけの様子。

ケータイをいじっていた人々は新宿に着くまで終始いじっていた、さわったり寝たりするのは⑦のみ、ケータイもほぼみなスライドしていることからSNSをチェックしている人が多いと推測する。スライドをしないで画面を見ている人は一人のみ。ケータイ組は降りる準備が早め、⑤はまだ着いてないのに立っていた。ホームに入る頃にはみな目を覚まし、泊まるころには①②⑦のみが座っている状態。①⑦は寝ていた。

①はずっと寝ていたため降りた後歩くペースが重く、ゆっくり階段登った。上着も楽器も全て右肩にかけ、時々下をみて歩くのでだるそう、楽器のカバンにはmonoの文字。階段をゆっくり登り総武線中野方面へ。

8 クラブバーを観る

観察者：田中秀幸

日時：4月30日（日） 20：30～21：15ごろ

天気：晴れ

場所：新宿2丁目ミックスクラブバー A

概要：1990年代初頭に誕生以来、様々な経営スタイルに挑戦し続け、今日のクラブスタイルに落ち着いた。ゲイのみではなく女性も入店可能なミックスクラブバー。ショットバー形式で一杯ずつ酒をかう。接客はほなし（スナックとの対照性）。観光バーだから広告露出多めで、人の目に入りやすい（初心者向け）。ミックスバー≡観光バー（ゲイバー≡スナックとの対照性）。

人物の観察結果：

【スタッフ】

- ①黒縁眼鏡を着用した20代後半くらいの男性。少し小太りで動きが遅い。
- ②短髪色黒の40代半ばほどの男性。スタッフ3人の中でも一番てきぱき動き、店を取り仕切っている様子。

③同じく黒縁眼鏡をかけた20代後半くらいの男性。スタッフ①よりもやせているが動きが遅いのは同じ。

※店のコスチュームとして3名が同じ黒いポロシャツと、白めの長ズボンを着用している。

【客】

①ダンスフロアで踊る30歳の男性。見た目は20代半ばほどに若く見え、服装は白い半そでTシャツに黒い長ズボン。Twitterのツイートによると週に一度はAに足を運んでいる常連らしい。また趣味でダンスを踊っているらしく、ダンスフロアで踊る客の中でも動きがひときわ目立つ。

②ダンスフロア一歩手前に立ち、酒を片手にあたりを見回す50台半ばの男性。白い半そでTシャツに半そでのシャツをはおり、色あせた水色のジーンズをはく。こちらも常連で、一人で来る若い男性を見つけては酒をおごり、話しかける。

③ダンスフロアに設置されたポールでダンスをするフィリピン系の外国人男性。服装はグレーのタンクトップに黒い長ズボンで、筋肉が程よくついており体格がいい。ポールダンスの腕前は素人とはかけ離れており、どこかのショーでパフォーマンスをしているように思われる。

④カウンター席に座る人々、⑤ボックス席に座る人々、⑥横長の席に座る人々、⑦ダンスフロアで踊る人々、⑧フロアの隅でスマホをいじる人々。

※客数が多かったので注目した客のみ詳細を記述している。

観察結果：

【20：25～20：40 店に向かう→入店】

都営新宿線の電車を利用し新宿3丁目駅で降り立つ。外気は寒くも暑くもなく、天気も悪くない。駅の出口から2分ほど歩き新宿2丁目に入り、2丁目を二分する「仲通り」を進む。10m間隔で周辺の道の両端に2、3人ほどの男たちが立ち留まっている。まだ時間帯が早いのかそれとも日曜日だからか知らないが、いつも来るときより2丁目の人口密度はまだ薄い。そしてある程度仲通りを進み一本横の道に入ると、すぐ向こうに「A」とカラフルな色の文字で書かれたピンク色の看板が光っているのが見える。Aはビルの中に入っている4つか5つくらいの店のうちの一つで、ビルの正面の階段を上った先の2Fにある。階段を上りきり、右に曲がると木製の大きなAの扉がある。A自体は初心者向けだとは言われるが、この大きな扉だけは2丁目のどこの店よりも威圧的なものだと思える。大きさのわりに重みの少ない扉を開けると、爆音のJ-POPのEDM風アレンジの音楽に全身が包まれる。

【20：40～20：43 注文】

店に入ってすぐ左にはバーカウンターがあり酒の種類が書かれたメニューが置かれている。メニューにはサワーやビール、焼酎など幅広い種類の酒が見てとれるが、いずれも一杯のみの料金でボトルの料金表示は見当たらない。メニューを見ていると黒縁眼鏡の小太りのスタッフが声をかけてくる。

「いかがなさいますか？」

「ジントニックひとつ」

「ジントニックひとつで。かしこまりました。」

居酒屋で頼むときと同じように簡潔な注文の流れで酒を買い、金銭を払う。これらによってAの典型的なショットバーとしてのあり方が形作られているように私には思われる。ただひとつ一連の流れの中で異質なのが、手首にブラックライトで反応するスタンプを押されるということだ。これはAとその姉妹店Xとを自由に行き来するための“通行証”のようなもので、普段は入店の際に一杯ドリンクを頼まなくては行けないが、このスタンプを提示すれば頼まずにも行ったり来たりすることができる。どちらの店舗も踊れるミックスクラブバーではあるのだが、Xは1年前まで風営法などで踊ることが禁じられていたため、解禁されてもいまだに踊る人は少ない。ゆえにA

は「激しく動いたり騒がしくしたりする場所」として、Xは「比較的静かに飲む場所」として認識されており気分によっていったり来たりする必要があるのだと思う。こういった柔軟な工夫をすることで儲けられなくなったといわれる2丁目において利益を生み、Aは生き残ってきたのではないだろうか。

そうして注文をし、30秒ほど待っていると注文したカウンターのもっと先のほうに頼んだ酒が置かれ、それを取ってバーの中に入る。

【20:43～20:50 バーの内部を見回す】

やはり外の様子と同じように20時台のAには客は少ない。8つあるカウンター席は埋まっているもののダンスフロアにはあまり人がおらず、ボックス席や横長のいす、カウンター席に座って会話をしている。ある程度会話をしている人々を見てみるとそれぞれの席のあり方がわかる。カウンター席は二人組みのペアや一人の客によって占められている。ボックス席は4、5人が集まって会話をしている。横長のいすは2人ペアであったり、4、5人のグループだったりがたむろしている。こうして見ると席という点においては非常にバランスの取れた構成で店内のあちこちに置かれていることがわかる。

席に座らず立っているほかの人々は不思議とダンスフロアの片隅でみなスマホをいじっている。出会いを求めるアプリを用いて2丁目において「相手探し」をしているのかと思い、気づかれないうちにちらりと覗いてみたが、普通にLINEをしているだけの人もおり、一概に何をしているのかを特定することはできなかった。

【20:50～21:10 個人観察】

少し人の入りが多くなり3人のスタッフも忙しそうにカウンター内を動き回り始め、ダンスフロアにも人が集まってくる。そのとき私は入店してきたある3人がとても印象に残った。

一人目はフィリピン人のような風貌の外国人ポールダンサーである。入店するやいなや酒を楽しむわけではなくポールに向かい、ポールダンスを始める。ポールに手を掛け回転したり、逆に足を掛け、頭を下にして逆向きに回転したり、素人目にはプロのように見えなくもない技術で踊る。その後もしばらく誰と話すわけでもなく彼は2本あるポールを行き来して自信たっぷりただひたすら踊っている。しかしたびたびポールのそばにいる通行人とぶつかりそうになっているところを見ると、自分自身に陶醉し周りが見えていないように思われた。それでも自己の技術を披露し、思い切り踊る姿にはさすがしさを感ぜられずにいられない。

二人目は趣味でダンスをしている30歳の若く見える男性である。彼と私は過去にTwitterでつながっており、そのツイートを見るに毎週ここに足を踏み入れているようだ。私が足を踏み入れたときはいつも、キレのあるダンスを踊りつつ、知り合いが店に入ると適度に会話をする。今日はいつもより落ち着いた動作で踊り、周りの知り合いと話し笑っている。彼も独自のペースでこの場になじみ夜を楽しんでいるようだった。

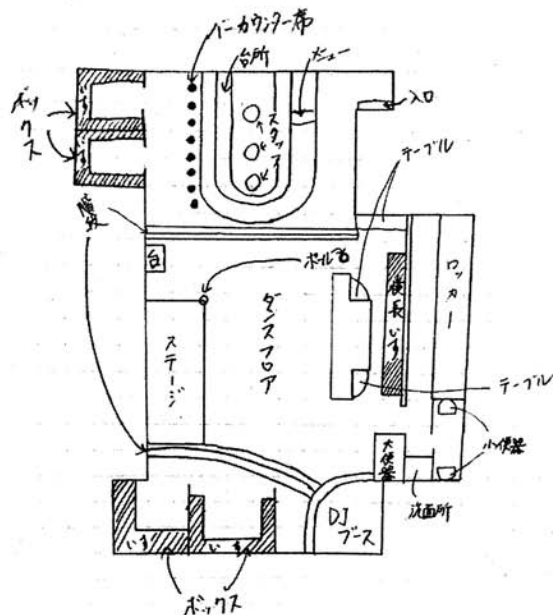
三人目は50代半ばの男性である。50代半ばとはいえ、腹が出ていたりして緩んでいるわけではなく、スマートな体形をしている。聞けば毎日体作りに励んでいるようだ。彼は毎週日曜日にここに足を運んではスタッフや知り合いに酒を奢ったり、一人で店に訪れた若い子に酒をおごり絡んだりしている。そして自分好みの洋楽の音楽が流れた際には50代半ばにしてはキレのあるダンスで踊り、一目置かれている。今日は片隅で店を眺めており、気に入る子が見つからなくて意気消沈しているようだった。

この3人はダンスをするという点で共通しているが、それぞれの細かな楽しみ方はまったく同じというわけではなく、各々が独自の目的をもって店を訪れる。この3人を見て基本的に酒を飲み、踊る空間としてAは存在すると同時に、ある程度の範囲までは客の楽しみ方を受け入れ昇華させる場として機能しているということに改めて気づいたように思う。

【21:10～20:15 退店】

50代半ば男性との会話もほどほどにして退店する準備を始める。飲み干したジントニックのグラスをカウンターに置くと小太りのスタッフがそれを回収する。多くの人が店に入ってくる流れに逆らい一人店を後にする。

店内図：



9 図書館を観る

観察者：野口香里

日時：2017年5月4日（木） 10：30～11：10 ※3日から始まるゴールデンウィークの中日で、みどりの日

場所：東京都豊島区ライズ・アリーナビルにある中央図書館（当日は10：00開館18：00閉館） 4F 学習スペース

状況：

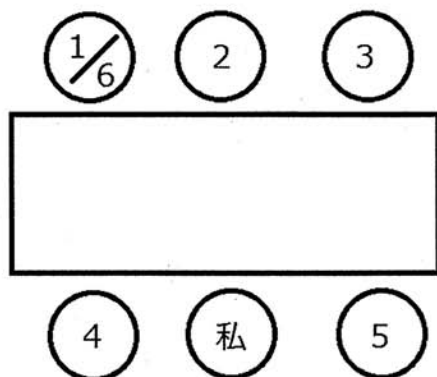
池袋駅から徒歩10分程度の位置にあり、東京地下鉄有楽町線の東池袋駅に直結している。近くには私立中学・高校の豊島岡女子学園や東京福祉大学がある。

図書館はビルの4・5Fに入っている。4Fには壁が窓になっている面に、個人で分けられた勉強スペースがある他、部屋の中央部に大きな机があり60名程度が座って書物を閲覧できる。そのうち約15名分は10代が優先して座れる場所になっている。また5Fにも作業スペースがあり約50席の閲覧席があるが、これは時間交代制で最大3時間の利用が可能である。

今回は4Fの大きな机がある閲覧席で観察した。というのも10：20頃に図書館に着いたら、すでに4Fの席はほぼ満席だったからである。5Fの閲覧席は参与観察がしづらいと考え観察場所の候補からは外した。

人物の観察結果：

自分は大きな机のほぼ真ん中の席に座り、周り5席に注目して観察することにした。便宜上、下の図のように席に番号をつけて観察した。



①『法律時報』を机に置き、雑誌の右上に黒いボールペンを置いてページをめくっている。ストライプ柄の半袖ニットを着ている短髪の女性。メイクは、赤い口紅だけしかしていないように見える。50代くらいに見える。落ち着きがなく、周りをキョロキョロ見まわしたり鞆の中を探ったりしている。また小声でぶつぶつと独り言を言っているが、それが誰かにこそこそ話をするように手を口元にあてて話している。

②①の人の荷物が置いてある。荷物は小さめのトートバッグ。椅子の背もたれにはベージュのスプリングコートがかけられている。

③大学受験の勉強をする男子高校生。Leeの濃いグレーのTシャツの着ていて黒い時計をしている。上半分が黒っぽい迷彩で下半分にはフレームのないメガネをしている。耳にかける部分は金色。世界史の本を赤ペン片手に読んでいるが、本に書き込みは一切されていない。読んでいる本の前には速単と英文法の参考書が積まれ、その上には日々のToDoリストが赤ペンで書かれたスケジュール帳が開かれている。Niko and…の迷彩柄のペンケースと細めの小さいポストイットが机に置いてある。あごや鼻を触りながら勉強している。あまり集中できていないように見え、たまに①の女性を気にしてチラ見している。

④日本語を勉強している中学生くらいの男性。アジア人の顔立ち。おそらく中国か韓国の方。シルバーのシャープペンとMONOの消しゴムを使っている。おそらくiPhone7を机上にだしている。参考書とノートを開きながらプリントをやっている。裏紙に漢字とカタカナを練習した紙も置かれている。それには、「広い」や「少ない」などの文字が書かれている。頭を抱えながら手を動かしているが、姿勢が良い。集中しているように見える。

⑤賃金支払の五原則の項目を勉強している男性。青ペンで参考書に書き込みがたく

さんしてある。問題集を解きながら、答え合わせをしている様子。黒縁メガネで時計をしている。濃い青のシャツを着て、袖を2回折っている。頭を抱えながら、髪をいじりながら労働基準法のテキストを4色ボールペン片手に勉強している。20代に見える。

⑥①が去ったあと、①の場所に座る。白シャツの中に青いTシャツを着ている高校生。黒い時計をしている。椅子に座って、誰かほかの人の動きをみているのか、ただボーっとしているのか、どこかを見ている。

時系列的な観察結果：

- 10:40 ①が雑誌をもって席を立つ。約5分後に『大人の発達〜』という雑誌をもって帰ってくる。笑いながら本と会話をしている。後ろを振り返り、かなり落ち着きがない。
- 10:47 ⑤が荷物をまとめ、鞆を椅子において席を立つ。約3分後、小さい女の子と一緒に戻ってきて、帰る。女の子は5歳くらいに見え、メガネにマスクをしていて、グレーのパーカーにピンクのスカートを履いている。
- 10:50 いつのまにか③がメガネを外して机に突っ伏していたが、ガクッとして起きる。下を向いて目をこすりながら、メガネを外したまま勉強再開。
- ④がiPhoneを横に持っていじり始める。漢字の書き順を調べていたみたい。画面に「短」の文字が大きく映っている。
- 10:53 ①は本をペラペラ速めにめくって、ぶつぶつ言いながらまた席を立つ。すぐに戻ってきてコートを着て帰る。
- 10:55 ③が参考書を変えて勉強し始める。前のめりになりながら、またたまに背もたれに寄りかかりながら薄い冊子に赤ペンで書き込みをしている。
- 10:58 ⑥がやってくる。机の上に鞆を置いて立ち去る。
- ③がいつのまにかメガネをしている。
- 11:00 ⑥が戻ってきてiPodで音楽を選び始める。片耳にイヤホンをして、着ていた白いシャツを脱いできれいにたたみ、鞆にしまう。鞆から書店のカバーがかけられた本を4冊と教科書を2冊、紙ファイルとクリアファイルのひとつずつ机に出す。ペンケースも出し、メガネをかける。勉強を始めると思いきや、机の下でスマホをいじっている。

感想：

今回初めて参与観察をしてみて、人の観察をしてそれを記録するのはとても時間のかかることだと分かった。たった5人分の観察でも、誰か一人を観察している間に他の4人も動きをとるので、1人に集中しすぎるといつのまにか別の1人がいないということも起きるだろう。そのため、常に全体の動きを意識しながら部分にも注目しなければいけないと思った。

10 公園を観る

観察者：平井美帆

日時：5月2日 13:52～14:50

場所：上柚木ひだまり公園

天気：晴れ、気温21度

観察結果：

13:30頃、南大沢駅前から徒歩で現場へと向かう。途中で、幼児用のシートを付けた自転車を運転する女性4人組に追い越される。目的の公園は幼稚園が近いので、降園の時間が迫っているのではないかと少し不安に思う。

13:52、上柚木ひだまり公園に到着。天気は晴れ、木の枝を動かす程度の風が吹いている。公園は歩道の一部が広がったような形で、マンションや小学校、中学校、幼稚園などが近隣にある。公園全体は中心が鋭角の扇形の様な形で、ブランコ、ベンチ、水道、時計、街頭、公衆トイレ、(金属製と思われる)三角形の屋根が7つなどの設備がある。到着した時、すでに17台の自転車が公園の一角に駐車されており、そのすべてが幼児用のシートをつけている。この時、公園内で過ごす人はいない。

13:55、子供たちが公園の前を通りかかる。黄色い帽子をかぶった子供が20人、白い帽子をかぶった子供が13人で、一緒にいる大人6人が引率しているようである。このうち、黄色い帽子をかぶった男の子3人と白い帽子をかぶった女の子1人が、それぞれ同性の大人に連れられて、公園内の公衆トイレを利用する。トイレの建物の外側には「通学路 防犯カメラ作動中」という表示とともに、公園内を映すようにカメラと思われる機械が設置されている。再び、全員が列に戻ると、まもなく皆立ち上がり公園を立ち去る。(14:01) この時、大人のうちの一人(女性)が子供たちに何か呼びかけている。発言のすべてを聞き取ることはできなかったが、「にねんせい」と発音したのが聞き取れたので注意して観察すると、黄色い帽子をかぶっている子供は、帽子に交通安全のマークが入ったタグをつけている。この集団は小学校1年生と2年生で、大人たちは引率の教員だろうと推測した。

また、この小学生たちが到着するのとほぼ同時に、カメラを持った男性2人が公園内を通過する。2人で何か話し合いながら公園内を見渡すが、結局何もせずに立ち去る。

ここで、人通りが途切れたので公園内を歩いてみた。公園のすぐ隣には幼稚園があり、扇形のちょうど「弧」になる部分で接している。間には1メートル30センチほどのフェンスがあり、その上に幼稚園側から木枠の中に緑色のネットが張られたものが、地面に打ち込まれたパイプに取り付けられ、さらに1メートルほど高くされている。公園内のブランコは赤色で塗られている。公衆トイレの建物は水色の小さなタイルで覆われたようなデザインだ。さらに、公衆トイレの隣には「バイクの乗り入れ、花火、たき火、ペットの放し飼い、草花・樹木の採集などを禁止する」という内容が、

それぞれ内容を表すイラストとともに描かれた看板が立っている。

14:10、首から緑色のひもでカードの様なものを下げた女性が自転車でやってくる。自転車の後部には幼児用のシートを取り付けている。公園にとめてあるほかの自転車と並べるように駐車し降りた後、茶色のリュックサックと薄い青色の帽子を身につけて隣接する幼稚園むかう。

14:13、公園と幼稚園を隔てるフェンス越しに二人の女性が幼稚園内を覗いているのに気が付く。1人は赤と黒っぽい色のチェックのシャツ、もう1人は白色のシャツを着ている。幼稚園の内側から4、5人の子供が駆け寄り話しかけている様子。

14:25、隣接する幼稚園で降園の時間を告げる園内放送が流れているのが聞こえる。話しているのは園児のようだ。「・・・おわりのじかんになりました。あそんだものをかたづけてかえりましょう。・・・〇〇組〇〇(名前)です。」(一部聞き取れず。)この放送の直後、フェンス越しに園内を見ていた女性はその場を離れ幼稚園入口方向に向かう。

14:26、続けて4人の女性が自転車に乗って現れる。皆自転車に幼児用のシートをつけている。彼女たちは互いにあいさつや短い会話を交わし、ともに幼稚園の入り口に向かった。これ以降、幼稚園内からたくさんの親子づれがでてくる。

14:35、公園に駐車された自転車の数は約36台に増えている。

三角形の屋根の下で、立ち話をする女性2人。1人はピンク色のTシャツにデニム、もう1人は水色と茶色っぽい色のチェックのシャツにデニムという格好である。公園の奥側にあるブランコに視線を向けている。そのブランコでは子供が遊んでおり、周りには別の親子も3組いる。会話の内容が聞き取れる距離まで近づこうと思い、地面の草花の観察をしているふりをして近寄ってみる。ところが、その直後、ブランコで遊んでいた1人の男の子が「おかあさん、おしてくれな一い」と大きな声で呼びかけたため、水色のチェックのシャツの女性が、ピンク色のシャツの女性にあいさつをして、子供のもとに近づく。水色のチェックのシャツを着た女性が、この男の子の母親のようである。

14:48、小学生の集団(10人程度)が公園の周りを通り過ぎる。

14:50、改めて公園内の自転車を数えると24台に減っている。

ここで1時間が経過したので観察を終了した。

11 博物館を観る

観察者：山岸哲也

日時：5月2日(火) 天気 快晴、気温22度、微風

場所：東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館本館1階(平成29年新指定国宝・重要文化財 展示室)

時系列的な流れ：

12：32上野駅着

公園口改札前に多くの人＋犬猫避難所募金活動

公園中央にテント多数、野口英世像前を通り、東博へ

12：40チケット購入（キャンパスメンバーズのため無料）

会話の観察結果①

12：42チケットを提示して入場

会話の観察結果②

12：45展示室に入り、全体の間取を確認

12：50展示室にて観察開始（図のベンチに座る）

14：00観察終了、展示室を去る

会話の観察結果：

①チケット売り場での売り子との会話 ※売り子：女性、20代、黒のジャケット

公園を通り抜け、チケット売り場に近くなり、学生証を見せればキャンパスメンバーズであるため入館が無料になることを思い出す。チケット売り場はガラス張りのようになっており、すでに多くの人がいる。筆者「こんにちは。すみません、常設展1枚お願いします（学生証を見せる）。」売り子「あ、はい。学生さんですね。有効期限を確認させていただきます。」筆者「はい。」売り子「ありがとうございます。では、こちらキャンパスメンバーズ用のチケットです。どうぞ。」筆者「ありがとうございます。」売り子の顔は強い日差しの乱反射による逆光でよく見えず。私の後ろで、西洋人男性2人がどこでチケットを買えばいいのかスタッフに聞いていた。スタッフは流暢とは言えない英語だが、笑顔で対応していた。チケットをもって入場口に進む。

②入場時の会話 ※スタッフ：男性30代、短髪白Yシャツ（ネクタイ）黒パンツ
ガラス張りの入場ゲートに入り、チケットを差し出し、筆者「お願いします。」すると、スタッフ「はい。キャンパスメンバーズさんですね。（チケットにスタンプを押す）ごゆっくりどうぞ。」はさみ式のスタンプを筆者のチケットに押す。筆者「ありがとうございます。」敷地内に入場。入ってすぐの本館前は、広場のようにになっており、噴水やベンチが設置してある。ベンチに座って休んでいる人々を横目に、そのまま正面の本館に進み、入ってすぐ右の展示室に入る。本館は普段の平日ならばほとんど人はいないが、大型連休中ということもあり、多くの人でにぎやかである。少々話し声がるさく感じるほどである。

展示室内での観察結果：

展示を見る人々の様子を時系列であげるが、多くの来館者がいたため、目についた人のみ記録した。

12：55～58、西洋人20代女性、上下黒色服、高価そうな白いブランド物？のバック

グを所持。持っていたデジタル一眼レフで、展示物を熱心に撮影。恐らく十二神像だけで10数枚撮影していた。満足したのか、その後退出。

12:58、西洋人20代4～5人組。十二神像の前で展示物を見ながら、何やら話をする。その後スマホで十二神像を数枚撮影、退出。

13:00、日本人女性40代、白Yシャツ、茶パンツ。十二神像を自分のガラケーでフラッシュをたきながら多数枚撮影。その場で、写りを確認している様子。満足したのか、そのまま退出。

13:00、日本人男性20代2人組、①メガネ赤パーカー、②白シャツ・ジーンズ。私が座っていた隣に座り、何やら話し込む。しばらくするとスマホを取り出していじり始める。13:05頃、再び展示物を見るため立ち上がって歩き回り始める。

13:05、西洋人中年男女2人組(40～50代?)。男はピンクシャツ・ジーンズ。上記の2人組が去った後、すぐその席に座り、荷物整理をはじめ会話。恐らくフランス語。まもなく荷物整理は終わり、すぐ展示物を見に立ち上がって退出。

13:10、上記日本人①②の2人組再登場。また同じところに座り、会話した後またスマホをいじり始める。10分ほどそのまま、その後退出。

13:15、日本人初老男性。ヒゲ、白髪まじりのロングヘアを後ろで縛る。白Yシャツ・ジーンズ・丸眼鏡。山本耀司似。持っていた小さめの双眼鏡で、十二神像の細部を遠くから鑑賞している様子。5分ほどで退出。

13:16、西洋人20代カップル。男:ヒゲ・短髪・黒シャツ。女:白シャツ・黒パンツ・茶髪ロング、痩せ型。まず女性が私の隣に座り、それに男が続く。女性が疲れたと見えて座った男に足をパタパタして見せた。二人の間で会話は一切なく、すぐに立ち上がり、退出。

13:20、日本人男女(30代?)。両者ともセミフォーマル。十二神のキャプションを二人で読んで、像の前で話す。像の周囲を歩き回り、談笑しながら鑑賞。男の方はあまり興味がなかったのか、展示物に目が行っていなかった様子。そのまま退出。

13:23、日本人20代男。奇抜なモノトーンのジャケット、黒スキニーパンツ。チャライ。十二神像の前に来たものの、他の来館者から離れてスマホ入力に必死。特に像を見ることなく、まもなくそのまま退出。

13:25、日本人初老夫婦(60代?)。私の隣に座り、十二神像のライティングに文句をつける。夫「あのライトもっと上から当ててくれればいいのに。まぶしくて見づらい。」妻「うん。」2分ほどで立ち上がり、そのまま退出。

13:28、日本人初老男(60代?)。白髪まじり短髪。白シャツ・ジーンズ・眼鏡。私の佐渡の知り合いにとってもよく似ている。疲れた様子で、私の隣に座る。そのまま気持ちよさそうにうたた寝。13:40頃突然目覚めて、立ち上がり退出。

13:30、西洋人男女カップル(20代?)。女性が十二神像周辺を歩き回っていたが、男と合流し、なぜか何の会話もなく突然抱き合う。男性はキャプションを読み、展示

物を見ていたが、女性の方は全く興味がない様子でふらふらと歩いていた。まもなく一緒に退出。

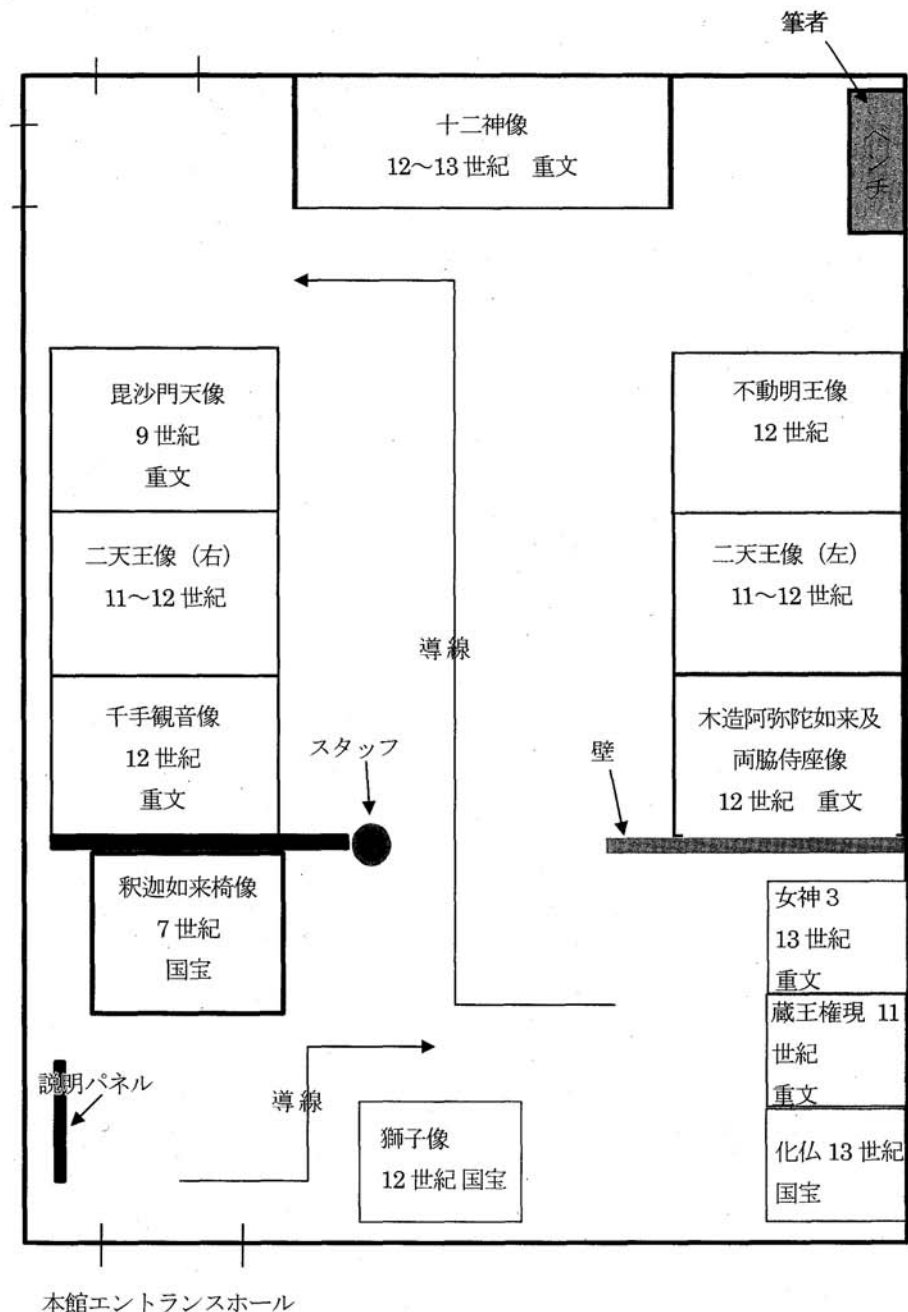
13:35、女子高生2人組。仲がよさそうに話していたが、展示物にはあまり興味がない様子。導線を逆走して、展示物をあまり見ることなくそのまま退出。

13:40、黒人カップル(20代?)。女性:黄シャツ。水色スキニーパンツ。男性:白地ローマ字Tシャツ。カーゴパンツ。2人で展示物を撮影していたが、女性の方が疲れた様子で、私の隣に座る。そのままスマホをいじり始める。男性の方は、そのまま熱心に展示物の撮影をしつつキャプションを読む。13:48頃に男性も座り、あまり会話はなく両者ともにスマホをいじる。その後、まもなく退出。

13:50、日本人おばちゃん4人組(50~60代)。十二神のため、自分たちの干支の像を必死に探す。「あ、私のって、あの弓もってるやつよ」「あら、ほんと」「あたしのはどれかしら」その後も像の前で話し、5分ほどで退出。

14:00、人数が減ってきたのと、筆者が疲れたので終了。大量の修学旅行生と思われる高校生の集団とすれ違う。

展示室見取図：



12 調理済み食品専門店を観る

観察者：渡部暖

日時：5月4日（祝日）13：50～14：30（比較的客が多いと考えられる時間帯）

場所：焼小籠包専門店S（JR町田駅から徒歩約5分、仲見世商店街の端）に位置する。

外観の観察結果：

店は推定4畳ほどの狭く細長い作りとなっている。通りに面した二面には窓ガラスがついており、客が中の様子を見ることができる。窓の所々に価格、営業時間や注意書き、小籠包の美味しい食べ方などが書かれた張り紙があった。窓の下には板が取り付けられちょっとしたイートインスペースになっている。塗装は看板から柱まで全て黄色と赤で統一しており、一目で中華料理屋だと分かる。

内観の観察結果の図：

省略

店員の観察結果：

店員は狭い店内に男性2名、女性2名の計4人がいる。男性は不織布のヘアキャップを被り、女性はバンダナを頭に巻いている。それぞれ役割が決まっており、

店員①（男）→ビニール袋に入れられ調理台の上に積まれた生地の中から一つ取り出し、こねてほぐす。それを再びビニール袋に入れて生地の上に戻す。その後別の生地（おそらくこねてから時間を置いて寝かせたもの）を取り出し半分に切って筒状に伸ばし、手でちぎっていく。時々ちぎったものを測りではかって重さを確認している。

店員②（女）→従業員①がちぎった皮を伸ばし棒で薄く円形に伸ばす

店員③（女）→皮を手に取り手首を回して皮の形を整えてから、肉を木べら（ガリガリ君の棒を大きくしたようなもの）ですくって乗せ、手際よく包んでいく。

店員④（男）→小籠包を焼く。

というような流れで小籠包を作る。従業員④はレジも担当しており、客の注文を受けると素早く容器に小籠包を入れてくれる。その間に従業員①が小籠包を焼いたり、網で油を漉している。従業員①と④は狭い店内でお互いの動きを見ながら臨機応変に仕事をしていた。従業員同士が会話をすることは見ている限りではなかった。

客の観察結果：

調査日はゴールデンウィークの中日であったということもあり、客の列は通りの中ほどまで伸びていた。道には白いビニールテープで矢印が書かれていて、客はそれに沿って列を作っていた。

年齢は老若男女問わず様々で、親子、祖母と孫、カップル、ストロールにサングラスのセレブ風中年女性二人、男二人連れなど組み合わせも色々であった。中にはフクロウを腕に乗せている子連れの男性客もあり、会計の時には一旦肩にフクロウを移動さ

せてから子供に1000円札を渡して支払わせていた。

買ってその場で食べる客も多く、大抵イートインスペースか通りの店から少し離れたところで食べていた。イートインスペースは店の長辺側にある方が主に使われ、通りに面した短辺側の方は、すぐ後ろに行列ができていたため使われることはほぼなかった。

実際に並んでみた際の観察結果：

これまでの観察は店を取り巻く行列の外側から行っていたが、今度は実際に列に並んでみることにした。並ぶときに「ここおいしいんだよ」と話す通行人の声を耳にする。列の最後尾について他の客の様子を観察すると、そのほとんどが窓から店の中の様子を見ている。スマホを見ている者は12人中1人~2人ほどであった。

筆者も窓から小籠包が作られていく様子を見ながら待っていると、約10分ほどで短辺側のイートインの前まで来た。するとそこに体格のいい中年女性が来て、イートインに置いてある黒酢を小籠包にかけてから立ち去った。手馴れた様子から常連であることが想像できる。

窓には小籠包のおいしい食べ方の説明書きがあったので、それを読んで順番を待つことにする。簡単に紹介すると、まず小籠包の天辺を箸でつついて穴をあけ、そこから肉汁をすすり、最後に残った皮と肉を食べるのだそうだ。肉には味がついているが、肉汁を出した後黒酢や辛味を肉につけて食べるとよりおいしらしい。

「なるほど」と思いながら読んでいるうちに順番が回ってくる。待ち時間約15分。小籠包は4個パックと6個パックの2つから選べる。店員④に目で「どうですか」と聞かれた気がしたので「4個ください」と言うと「ここで食べていきますか」と尋ねられる。「はい」と答えると素早く容器に小籠包を入れ、箸を添えて出してくれる。

代金を支払い横にずれて長辺側のイートインで食べる。イートインには自分を入れて4人ほどの客がおり、かなり狭い。すぐ後ろを通行人がひっきりなしに通るため、リュックを背中に背負っていると度々人にぶつかる。

貼り紙に従って箸で小籠包の天辺を少しつくと、勢いよく肉汁があふれだす。割れ目から肉汁をすすろうとするが熱すぎてうまくいかない。他の客を見ると汁を器に流し、肉を食べた後で飲んでいるようだったのでそれに倣う。こっちの方が食べやすい。

となりで4個パックの小籠包を二人で分けていたカップルはこんな会話をしていた。「おいしい！ケンカしてもこれ買ってきてくれたら許しちゃうね」「あはは、でもこれ食べたいからってケンカするのはナシだからな」

こんな会話を隣で盗み聞きしている自分は何なんだろうと思いながら食べていると、店員がもう一人やってきて「すみません、失礼します」といって筆者の横をすり抜け、腰を低くして従業員入り口から店の中に入っていった。

最後に黒酢と辛味を試してから店を後にした。

感想：

実際に観察対象を目の前にすると何から書き始めていいのか分からなくなった。どれも重要なことに思う一方でこんな些細なことを取り上げていいのかと思うこともあった。試行錯誤する中で改めて気づいたのは、やはり一回参与観察を行っただけでは自分の思うような観察はできないということだった。今回の反省点を次に生かしていきたいと思う。

参考文献

佐藤 郁哉

2002 『フィールドワークの技法―問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社。

谷 富夫・芦田 徹郎

2009 『よくわかる質的社会調査―技法編』ミネルヴァ書房。

ファウラー、エドワード

2002 『山谷ブルース』川島めぐり訳、新潮社